

第5回（平成9年度）

【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■「中央林間 3-24-3~10、 3-28-20~26 の街並み」 （中央林間）

通りの両側は、緑豊かで個性に富んだ低層の住宅地で、林間都市のイメージを残す優れた街並みが形成されている。建物は、かつての「将校ハウス」として、シンプルではあるが、好感の持てるたたずまいとなっている。



■「引地川公園 親水広場」 （上草柳）

「水と緑と花」をテーマに、池や小川や滝によって、子供たちが水や水辺の動植物と親しむことができる広場になっている。自然を前面に掲げ、多くの人が楽しむことができる新たな水辺の憩いのスペースを創出している。



■「東急ストア中央林間店 店舗北側空間」（中央林間）

店舗北側のセットバック空間を公開空地とし、歩道と一体となった整備により、緑豊かで良好な歩行者空間を創出している。店舗の一階部分をガラス窓（レストラン）にすることにより、室内との連続性も適度に確保され、また、夜間景観の美しさも楽しめる場となっている。歩道部分は維持管理の状況も良く、快適な歩行者空間が創出されている。



■「つきみ野 7-18-9~28 の街並み（つきみ野）」

個性ある家々が連続しているが、緑豊かな庭先が街並み全体を調和させている。また、通りが程良いカーブを描き、建物の配置等にも工夫が見られるため、心地よいリズム感のある街並みを形成している。これらの街並みは、つきみ野地区の住宅地のイメージをリードするものとなっている。



■「引地川沿いの散歩道（山王 橋から新道下大橋）」（福田）

引地川を中心に、斜面緑地や川沿いの木々、そして街並みが一体となって、魅力的な河川景観を形成している。河川沿いの花壇やコンクリート護岸へのツタ等による緑化なども空間に彩りを添え、市民が楽しめる散策路となっている。川沿いの風景も含めて、地域の景観づくりに貢献している。

<まちのアクセサリ賞>



■「緑と花、安らぎの空間」 安武秀次郎（中央林間）

広い庭の周囲を高い塀などで囲わず、道行く人からも楽しめる開放的な空間を創出している。また、庭の手入れも行き届き、切り妻屋根の家もシンボリックで魅力的な景観となっている。個人宅でありながら、街並みにうるおいを与え、落ち着いた空間を創出している。



■「三角出窓のディスプレイ」 栗林浩郎（つきみ野）

通りに向けて設置された三角形の出窓に、四季折々のディスプレイをし、道行く人々を楽しませている。また、夜は照明が当てられるなど、まちかどの小さなギャラリーのような細やかな配慮が伺える。個人宅でありながら、街並みに個性ある表情を与えている。



■「西洋風の素敵なお宅」 家氏俊二郎（渋谷）

比較的喧騒のイメージが強い場所にあって、それを忘れさせてくれるような、緑豊かで魅力的な空間となっている。手入れの行き届いたガーデニングは周囲からも楽しめ、たくさんの色とりどりの草花と、幾つかの人形の置物が住む人の夢を感じさせてくれる。明るい外壁の色も工夫されている。

第6回（平成10年度）

【活動部門】



■中央林間まちづくり委員会

平成元年の設立以来、中央林間地域を活動エリアとして、自主的かつ積極的に街づくり活動に取り組んできた。まちの将来像や活動指針を示した「まちづくり憲章」の作成をはじめ、街づくりに関する勉強会やワークショップ等を重ねながら、多くの地域住民の参加を得て、様々な活動を継続的に実践してきた。



■どんぐり公園を育てる会

ワークショップ形式により市民参加の公園づくりが実践された。全体としてやや行政指導型で進められたようだが、公園のデザインから維持管理まで、市民による活発な議論や検討が行われてきた。

【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■「大和学園聖セシリア」(林間)

南林間の静かな住宅地の中に、幼稚園から短大までの一連の学校施設が整備され、長い時間をかけて緑豊かな教育環境を育ててきた。松の高木と植え込みに囲まれた施設は、当初の林間都市開発の姿を思い起こさせ、そのイメージを地域に伝えている。



■「鶴林寺・長谷川邸」(下鶴間)

旧矢倉沢往還沿いにたたずむ寺院であり、隣接する長谷川邸とあわせ大和市に残る数少ない歴史的空間を形成している。特に坂道に面した長谷川邸の倉、黒板塀と門、及び鶴林寺の斜面緑化は、魅力的な歴史を感じさせる景観となっている。



■「高座みどり幼稚園」(南林間)

南林間駅西口から伸びた、放射線状のヴィスタ（道路の延長線）上に赤い屋根の園舎が配置され、シンボリックな景観づくりが林間都市のイメージを高めている。

<まちのアクセサリー賞>



■「環境共生型の商業ビル」 アーキテクツ（中央林間）

コンクリート打放しの外壁と樹木が調和し、林間イメージにふさわしいおしゃれで文化的な香りのする建築デザインとなっている。また、施設内では有志による勉強会が開催されるなど、交流の場としても地域に親しまれている。



■「クリスマスイルミネーション」 保田邸（代官）

クリスマスの時期に、樹木や建物をライトアップし、平凡な住宅地のまちかどに効果的なアクセントを与えている。また、庭の手入れも行き届き、四季を通じて草花が溢れており、地域の景観向上にも寄与している。



■「古き南林間の面影を残したお宅」大木邸（南林間）

広い邸宅ではあるが、周囲に開放的であり、道行く人は手入れのよく行き届いた様々な種類の緑の庭をうかがうことができる。しゃれた洋風の家屋とともに南林間を代表する住宅景観となっている。

第7回（平成11年度）

【活動部門（団体表彰）】



■引地川かわくだけり実行委員会

平成2年より、ゴミ拾いや川歩き、遊びを通じて川と水の間接関係を考えるイベントとして、引地川の川下りが実践された。単なるイベントに終わることなく、活動は報告書としてまとめられ、長年にわたり、提言を続けている。

■千本桜街づくり委員会

平成10年に「千本桜街づくり準備委員会」として結成され、まちの将来像として「千本桜地区街づくり構想」が策定された。その後「千本桜街づくり委員会」として発足し、構想実現に向けた街のルールづくりを目指し活動してきた。その熱心で活発な取り組みは、他の地区の街づくりの参考となるばかりか、既成市街地における地区計画への取り組みの先駆的事例となっている。



【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■「トつきみ野の庭園及び公開空地」(下鶴間)

南側に高木の多い庭園や提供公園を配置し、地域にも開放された緑の多い環境を形成している。管理の行き届いた庭園は、憩いの場として魅力溢れる空間であり、また大規模マンションの圧迫感を軽減する事例となっている。



■「大和市消防北分署」(下鶴間)

消防署建築にありがちな、無表情で威圧感の強いイメージを一扫し、シャッターに火消しの纏（まとい）や半纏（はんてん）のイラストを描くなど、形や色彩の工夫により、市民に身近な公共建築として親しまれている。



■「矢倉沢往還」長谷川邸付近～小倉邸付近(下鶴間)

旧矢倉沢往還沿いは、市内で数少ない歴史的な風格ある街並みを形成している。宅地内の緑が豊かなゆとりある佇まいで、大和らしさを伝える街並みとなっている。

<まちのアクセサリ賞>



■「矢倉沢往還沿いのゆとりある門構え」中村邸(下鶴間)

門前に迎える松を植樹し風格ある門構えの景観を構成している。門を大きくセットバックさせ、歩道側にゆとりある空間を創出した点は、旧矢倉沢往還の狭い歩道空間に対する今後の街づくりのお手本となっている。



■「街並みと連続性ある石垣塀と門」山口邸(深見台)

本格的な瓦屋根を冠した石垣塀が、街並みに風格を与えている。門の格子戸から邸宅の緑豊かで手入れの行き届いた庭園が垣間見え、街並みと程良い連続性も保たれている。



■「なかよしの像」『さんぼ』安藤泉作(つきみ野)

交通量の多い喧騒な幹線道路沿いだが、ゲート性の高い形態と微笑ましい子供達の像は、桜の散歩道の入口に相応しい心安らぐ空間を創出しており、多くの市民に愛されてきた小広場となっている。

第8回（平成12年度）

【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■「日本ア化[®]-EM(株)大和事業所」(下鶴間)

広大な敷地に、きめ細かく配置された緑とシンプルな建物、周囲に配置された緑地が良好な景観を形成している。



■「小田急」トア[®]ニュー中央林間」(中央林間)

統一されたデザイン、塀のない街並み、曲線を取り入れた区画街路により開放感ある空間を創り出している。



■「東京電力(株)大和営業所」(深見西)

建物前面の空地を開放的な植栽とシンボルツリーによって緑の街かどとして演出し、魅力ある空間を形成している。



■「引地川沿いのオープンな街並み」(福田)

フェンスをなくし、枕木状の材料を使用した門回り、手入れされた草花が街並みに連続性や統一感を生み出している。

<まちのアクセサリ賞>



■「快適なスペース」南林間中央公園(南林間)

道路と連続する花壇、築山や松ぼっくり型の時計、遊具の形態や配置が工夫され、街かどを飾っている。



■「素敵なアプローチ」吉川邸、佐々木邸(福田)

隣接する住宅が一体となって手作り感覚のガーデニングにより街かどを演出し、道行く人を楽しませている。



■「西鶴間のモダンな空間」(西鶴間)

シンプルな建物が、モダンなイメージを創出し、タペストリー(壁掛け)や、ライトアップによって街かどを演出している。



■「都会のオアシス」大和中央[®]-林-ム[®](中央)

建物前面を緑豊かな曲線状の歩道で整備し、都心部にあって人が憩える魅力ある空間となっている。

第9回（平成13年度）

【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■「コンフォール鶴間ライラック通りとリラの丘公園」(鶴間)

緑豊かな植栽が施され、快適な住環境が形成されている。特にワークショップ形式でつくられた「リラの丘公園」は防災機能を備えた公園として地域に親しまれている。

<まちのアクセサリ賞>



■「角と丸の調和」金邸（つきみ野）

開放的な玄関先に、円形を取り入れた親しみの感じられる門がデザインされている。木の手すりやレンガの外構は、手作り感覚で温かみのある景観を生み出している。



■「通りのシンボル『時計台』と森の宿『ふくろう』」 南林間一条ハム（南林間）

建物のペントハウスに設けられた「時計台」は周辺地域のシンボルとなっている。また、建物の階段わきスペースに設置された「ふくろうの彫刻」も、その芸術性とあいまって、空間の魅力を高めている。



■「ぜいたくな空間のある平屋」 綏山邸（大和東）

緑のやや少ない地域の中で、石塀を後退した空間の外向きに植栽を施し、街並みに潤いを与えている。どっしりと地の足を着けたような和風の趣ある住宅と一体となって、地域の魅力を高めている。



■『楽しい幼稚園』 西山学園 大和幼稚園（大和東）

駅からの商店街の並びにあって、カラフルなさく的设计や、開放的な園庭に置かれた様々な遊具のデザインが、周辺の街並みに楽しさを与えている。

第10回（平成14年度）

【事例部門】

＜まちのグッドデザイン賞＞



■セ・バルレ中央林間(中央林間)

鶴間の森に向かって通り抜けできる通路や既存の樹木を多く残した外部空間の造り、建物の重圧感を軽減させるデザイン上の工夫など、これからの大規模マンション整備のあり方の一つの手本を示している。



■まごころ地域福祉センター（柳橋）

周辺との調和に配慮した建物の色彩や特徴ある外観など、公共施設として、人にやさしい、また地域のランドマークとしても見映えの良いデザインの建物となっている。



■南林間むつみ公園（南林間）

ワークショップにより、ウォーキングコースや足つぼを押す石敷きなど、健康づくりを視野に入れた仕掛けを持ち、従来型の遊具を持つお決まりの公園とは一線を画したユニークな施設となっている。

＜まちのアクセサリ賞＞



■「ガラスと松のファード」 聖セシリア女子短期大学1号館(林間)

ガラスを多用した透明感のあるスマートな現代建築には清潔感が漂い、一方門前に生えていた既存の松の木を残し、現代建築と古風な松との不思議なマッチングは、生垣とともに新しい景観の魅力を創り出している。



■「門前入口の庭園風道路」 関水邸（福田）

単なるアプローチ道路ではなく、ゆったりと曲線を描く道沿いに庭石と植物とを巧みに組み合わせて築いた知恵と工夫、きめ細やかな手入れなど、道行く人たちをふと和ませる感性とこだわりが感じられる。



■「枕木の暖かさ」 渡辺邸（つきみ野）

木の持ち味を發揮した素朴な材質感が好ましく、自然石の床面、明るい色彩の住宅とのコントラストが暖かみを伝え、個性と調和のバランスが冴えたアクセサリとなっている。

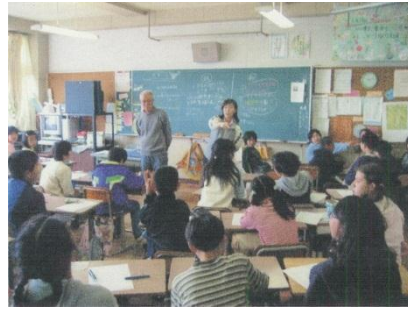
第 11 回（平成 16 年度）

【活動部門】



■つるまの森保全協力会

10年の長きにわたり広葉樹の植樹など、つるまの森の育成の保安全管理の活動に取り組む。環境学習として子どもたちと世代を超えた交流や地域の人たちとの連携した実践は、街づくり活動の模範となっている。



■中央林間小学校ワークショップ

学校教育プログラムの一環として、地域の人々と積極的に交流をしながら、30年後のまちの姿をまとめあげた。子どもたちからの貴重な街づくりの提案となっている。

【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■横浜うかい亭（つきみ野）

和風を基調とした瓦屋根の建物や重厚な門扉などの質の高いデザインは、周辺住宅地とも調和し、街並みに風格を与えている。



■グリーンアベニュー（西鶴間）

元々自生していた樹木を巧みに生かし、地域に開放された遊歩道や前庭空間によって、ゆとりある集合住宅となっている。

<まちのアクセサリー賞>



■「モザイクタイルのベンチとシンボルツリー」 桐がプレミアムアパレルショップ （上草柳）

モザイクタイルを施したモニュメント風なベンチと、シンボルツリーで演出されたエントランスが、まちに印象的で楽しい空間を創り出している。



■「趣ある草花画廊」 前田邸（西鶴間）

通り沿いいっぱいに花々や野草を配し、季節の移ろいを感じさせる演出と限られた空間を活かすための柵や間仕切りの工夫が道行く人々を楽しませている。



■「境界領域の見事な演出」 馬場邸（つきみ野）

公道との境界にある敷石や樹木、野草の連続が、建物の外壁の色彩や曲線を描く生垣とあいまって、バランスの良い見事な空間を創り出している。